

えだまめくんの大ぼうけん

—「A表現(2)」—

～ 想像を広げて、自由に絵に表す楽しさをあじわう ～

広島市立東野小学校 伊藤 美保
三野 明香

- 1 日時・場所 平成24年 11月 22日(木) 2年3組教室
- 2 学年・組 第2学年3組(男子13名 女子17名 計30名)
- 3 題材について

- 本学級の児童は、元気で明るく自分の思いをのびのび表現でき、図画工作科の時間を楽しみにして意欲的に造形活動に取り組むことができる児童が多い。発想や構想の能力については、題材のテーマや材料からすぐにイメージを広げて、すぐに活動に取りかけられる児童もいれば、自分のイメージがなかなか思い浮かばず、活動に取りかかるまでに時間がかかる児童もいる。友だちの作品や試作などを参考にしながら、自分のイメージを広げ、自分なりに表したいものを工夫して表現する姿も見られるようになってきている。「ふしぎなたまご」という題材では、今まで見たことのないふしぎな模様のたまごから生まれたらいいものをのびのびかくことができた。しかし、想像を膨らませてかくということに自信がもてず、なかなか活動することができない児童もいた。パスを使っての活動は、持ち方を変えたり、こすったりして表し方を変化させる経験をしている。絵の具での彩色はあまり経験を重ねておらず、絵の具を使うことを楽しんではいるが、用具の基本的な使い方などはしっかり身につけているとは言えない。鑑賞に関しては、友だちの作品を見ることを楽しみにしている児童が多く、友だちの作品のよさを話すことができる。
- 本題材は、教師による「大ずくんからの手紙」の読み聞かせから、児童は、大豆くんがえだまめくんだったところ偶然さやから飛び出したところからの冒険のようすを思い思いに想像し、自分のかきたい冒険のようすを絵に表していくものである。そのため、どの児童も最後まで自由な想像を楽しみながら表現できる題材であると考え。表現活動においては、これまでの経験のあるパス・絵の具・フェルトペンなどで画用紙に線描や彩色したり、布や紙、綿、ひも、毛糸などを絵の中に貼り付けたりして、児童が表現の仕方を選んで絵に表していく。思いに合った多様な方法が選べることで表現への興味や関心を高めることができると考える。本学年の児童は、生活科の学習で4月にそれぞれの植木鉢に大豆の種をまき、水やりなどの世話をしながら実をつけるのを楽しみに育てた。夏休み前には、えだまめになったところを家にもち帰り味わった後、「えだまめ集会」を開いて、栽培の指導をしてくださった地域の方に感謝の気持ちを伝えたり、みんなで学習の成果を喜び合ったりした。この体験から、児童は主人公のえだまめくんに心を寄せて想像を広げ、楽しみながら表現していくと考える。
- 指導にあたっては、事前に冒険物語の絵本の読書や読み聞かせを取り入れることで想像の楽しさを味わわせたい。導入では、どんな冒険ができれば楽しいか自由に想像できる楽しい雰囲気を作り、動作化したり、思いを発表したりする時間をとることで、児童の想像が広がりやすいようにする。使う画材は自由とし、用具の使い方については児童がいつでも確認できるように掲示しておくようにする。また、児童がのびのびと表現できるように、数種類の大サイズの画用紙から選ぶことから活動を進めていくようにする。できるだけ児童の要求に答えられるように「試し紙」「糊下紙」「材料」など教師側で用意し、用具も自由に使えるように児童の活動するそばに準備させおく。仕上がった作品はグループや全体で鑑賞し、自分や友だちの表現のよさを認め合い味わう時間とする。発想が広がりにくい児童には、タイミングをみながら声かけをし、下がきをさせたり、えだまめくんをイメージキャラクター化したりして想像が膨らみやすいようにする。また、友だちの作品を静かに途中鑑賞させたり、言葉かけをしたりして児童自身をもって表現できるようにする。

4 題材の目標

- えだまめくんの冒険のようすを自由に想像し、自分の思いに合った方法で絵に表す。

5 題材の評価規準

	ア造形への関心・意欲・態度	イ発想や構想の能力	ウ創造的な技能	エ鑑賞の能力
題材の評価規準	「大ずくんから手紙」の読み聞かせから、かきたい冒険のようすを想像し絵に表わす活動を楽しもうとする。	自分がかきたい冒険のイメージが表れるように、形や色、表現方法を考えている。	かきたい冒険のイメージに合った表現方法を選び表している。	自分や友だちの作品を見て感じたよさについて話したり、聞いたりしている。

6 指導と評価の計画（全 5 時間）

時間	学習活動	学習活動における具体的評価規準等		
		評価規準 評価方法	十分満足できると 判断される状況	努力を要する 状況への手立て
第一次 （ 本時 2 / 4 時間）	かきたい冒険のようすを絵に表す ・かきたい場面を自由に想像し、思いに合った表現方法で絵に表す。	ア（観察） イ（観察・作品） ウ（観察・作品）	・「大ずくんからの手紙」を聞き、自分がかきたい冒険のようすを想像し絵に表す活動を <u>意欲的に</u> 楽しもうとしている。 ・自分がかきたい冒険のイメージがよりよく表れるように、形や色、表現方法を <u>工夫している。</u> ・かきたい冒険のイメージに合った表現方法を選び <u>工夫している</u>	・発想が困難な場合「ヒントカード」を提示する。 ・友だちの表現方法を途中鑑賞させる。 ・思いついた表現をしっかりと認める。
第二次 （ 1 時間）	鑑賞会をする ・仕上がった作品を見合い、自分や友だちの表現のよさを伝え合ったり味わったりする。	エ（観察）	・自分や友だちの作品を見て感じたよさについて意欲的に話したり、聞いたりしている。	・思いを引き出しながら、そばで一緒に話す補助をする。

7 本時の目標

冒険のイメージをふくらませ、自分の思いに合った方法で絵に表す。

8 準備物

（指導者）のり下紙 試し紙 掲示物など

（児童）作品 パス フェルトペン 絵の具道具 材料 はさみ 接着剤 手ふき布など

9 本時の展開

学習活動	○教師の支援 ★努力を要する児童への支援	評価規準・評価方法
1. 本時の学習内容をつかむ。	○ 前時までの学習を思い出させ、時間設定を知らせる。 ○ 用具の使い方はいつでも確かめられるように掲示しておく。	
めあて えだまめくんになって、かきたいぼうけんのようすをかこう。		
2. 自分のイメージに合った方法を選び冒険のようすを絵に表す。	○ 活動を進めながら表したいことを見つけることが多いので、表したいことの変化など児童の思いをしっかりと受けとめ迷ったり、試したりする過程も大事にする。 ★ 発想を広げたり、自分の思いをはっきりできるように、友だちの表現方法を途中鑑賞する。 ○ 本時の個々の活動を把握し、次時の活動を説明する。	イ（観察・作品） ウ（観察・作品）
3. 本時の振り返りと次時の学習内容について聞き、後片付けの仕方を確認する。		

えだまめくんの大ぼうけん

—「A表現(2)」—

～想像を広げて、自由に絵に表す楽しさをあじわう～

広島市立東野小学校 小路 優美子

1 日時・場所 平成24年11月22日(木) 9:55～10:40 2年4組教室

2 学年・組 第2学年4組(男子13名 女子16名 計29名)

3 題材について

- 本学級の児童は、全体的に明るく活発で新しい活動を好み、図画工作科の授業をととても楽しみにしている。しかし、表現活動においては、発想が難しく自由に想いかくことに困難さを感じていたり、イメージがわかず人まねになってしまったりして自分なりの構想が固まるまでに時間がかかってしまう児童がいる。創造的な技能については、これまで主に経験してきたパスの技法は思いに合わせて取り入れていくことのできる児童が多い。絵の具での彩色はあまり経験を重ねておらず、絵の具を使うことを楽しんではいるが、用具の基本的な使い方などがまだしっかり身につけていない実態も見られる。鑑賞では、児童は友だちと作品を発表し合うことをとても楽しみにしている。鑑賞の経験を重ねるごとに作品のよさを深く感じとった発言をする児童も増えてきている。
- 本題材は、教師による「大ずくんからの手紙」の読み聞かせから、児童は、学校の枝豆畑で育った大豆がまだ枝豆だったころ、偶然さやから飛び出して冒険に行くところからの様子を思い思いに想像し、自分がかきたい場面を絵に表していくものである。児童の好む心躍る冒険がテーマであるため、どの児童も最後まで自由な想像を楽しみながら表現できる題材であると考え。表現活動においては、パス・絵の具・サインペンなどを使って、それぞれが選んだ大きさの画用紙に線描や彩色をしたり、布や紙、綿、ひも、毛糸など自分で選んで用意した材料(用紙に貼ることができるもの)を絵の中に貼り付けたりする方法を自由に選んで絵に表していく。思いに合った多様な方法を選べることで表現への興味や関心をたかめることができると考える。本学年の児童は、生活科の学習で4月にそれぞれの植木鉢に大豆の種をまき、水やりなどの世話をしながら実をつけるのを楽しみに育てた。夏休み前には、えだまめになったところを家に持ち帰り味わった後、「えだまめ集会」を開いて、栽培の指導をしてくださった地域の方に感謝の気持ちを伝えたり、皆で学習の成果を喜びあったりした。この体験から、児童は主人公の「えだまめくん」に心を寄せて想像を広げ、楽しみながら表現していくと考える。
- 指導にあたっては、事前に冒険物語の絵本の読書や読み聞かせを取り入れることで、発想がわきやすくなるようにする。導入では、どんな冒険ができれば楽しいか自由に想像できる楽しい雰囲気をつくり、動作化をさせたり、話し合ったりする時間をとることで発想が広がるようにする。使う画材は自由とするが、かき進めていくときに難しくならないように、授業の始めにそれぞれの使い方のポイントを確認するとともに、児童がいつでも確かめられるよう掲示しておくようにする。活動中は、発想が困難な児童には、個々に応じて具体的な場所や人物などをいくつか示した「ヒントカード」を提示したり、友だちの作品を途中鑑賞させたりするなどの支援をし、児童が表したものをしっかりと認めていく。「試し紙」「糊下紙」「手拭き」「材料」など必要な道具も用意しておき、児童が表現活動に集中できるようにする。できた作品はグループや全体で鑑賞し、自分や友だちの表現のよさを認め合い味わう時間とする。

4 題材の目標

- えだまめくんの冒険のシーンを自由に想像し、自分の思いに合った方法で絵に表す。

5 題材の評価規準

	ア造形への関心・意欲・態度	イ発想や構想の能力	ウ創造的な技能	エ鑑賞の能力
題材の評価規準	「大ずくんからの手紙」の読み聞かせから、かきたい場面を想像し絵に表す活動を楽しもうとする。	自分がかきたい場面のイメージが表れるように、形や色、表現方法を考えている。	かきたい場面のイメージに合った表現方法を選んでいる。	自分や友だちの作品を見て感じたよさについて話したり、聞いたりしている。

6 指導と評価の計画

時間	学習活動	学習活動における具体的評価規準等		
		評価規準 評価方法	十分満足できると 判断される状況	努力を要する 状況への手立て
第一次 （全5時間 本時1時間 5）	かきたい場面を絵に表す ・かきたい場面を自由に想像し思いに合った表現方法で絵に表す。	ア （観察） イ （作品） （観察） ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・「えだまめくんの大ぼうけん」の話を聴き、かきたい場面を想像し絵に表す活動を<u>意欲的に</u>楽しもうとする。 ・自分がかきたい場面のイメージがよりよく表れるように、形や色、表現方法を考え<u>工夫している。</u> ・かきたい場面のイメージに合った表現方法を選び<u>工夫している。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・発想が困難な場合「ヒントカード」を提示する。 ・友だちの表現方法を途中鑑賞させる。 ・思い付いた表現をしっかりとほめる言葉かけをする。 ・接着が難しい場合の補助をする。
第二次 （1時間）	鑑賞会をする ・できた作品を見合い、自分や友だちの表現のよさを伝え合ったり味わったりする。	エ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や友だちの作品を見て感じたよさについて意欲的に話したり、聞いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いを引き出しながら、そばで一緒に話す補助をする。

7 本時の目標

「大ずくんからの手紙」の読み聞かせから、冒険のイメージをふくらませ想像したことを絵に表す。

8 準備物

（指導者）「大ずくんからの手紙」、ヒントカード、画用紙、掲示物など
（児童）パス、絵の具道具、フェルトペン など

9 本時の展開

学習活動	○教師の支援 ★努力を要する児童への支援	評価規準・評価方法
1. 本時のめあてと学習内容をつかむ。		
めあて えだまめくんになってぼうけんのばめんをそうぞうし、絵にかこう。		
2. 「大ずくんからの手紙」の読み聞かせから、えだまめくんになって動作化をしたり、自分が想像した冒険について話し合ったりしながらかきたい場面を決める。	○読み方を工夫したり、自由に話したりさせて楽しい雰囲気をつくり、児童の意欲をたかめる。 ★一緒になって動作化をする。	ア（観察） イ（作品・観察）
3. かきたい場面を思いに合った方法でかいていく。	○用具の使い方などを表示した掲示物を貼り、児童がいつでも確かめられるようにする。 ○一人一人の表現をしっかりと認め、自信をもって進めていくことができるように言葉かけをする。 ★ヒントカードを提示したり、途中鑑賞をさせたりして発想や想像の広がりへの支援をする。	
4. 本時のふり振り返りの学習について聞き、後片付けをする。	○感想を聞き、次時の準備物を伝える。 ○後片付けの仕方を伝え混乱のないようにする。	